



HULFT アダプタ ご紹介

2021年7月版

株式会社セゾンテクノロジー



製品概要

HULFTアダプタとは

DataSpiderとHULFTを連携することができるアダプタです。

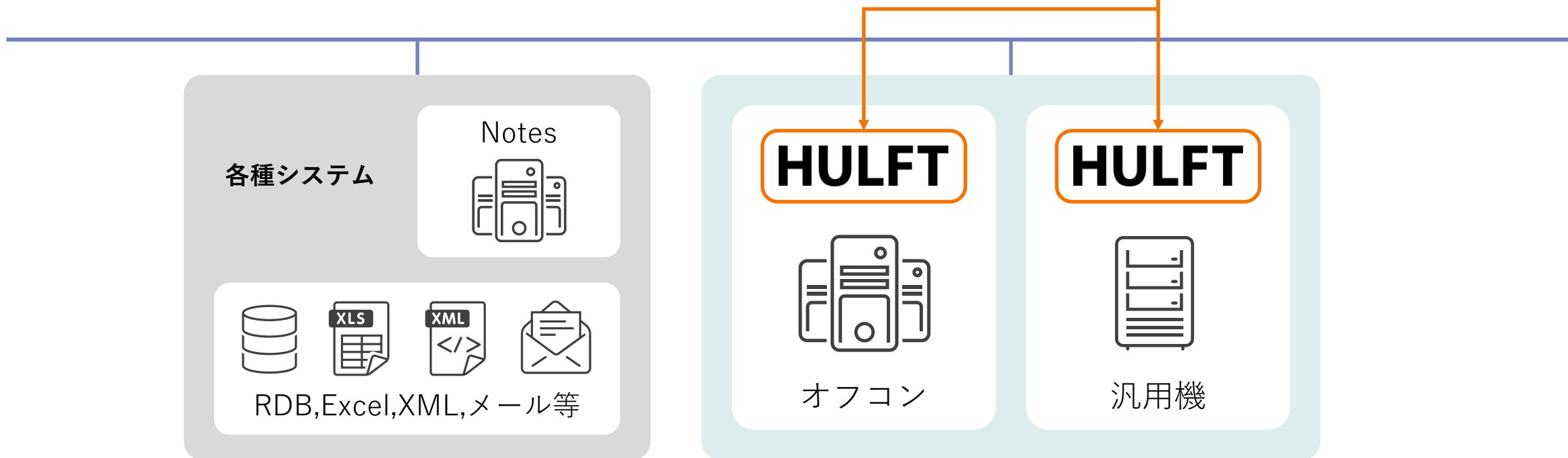
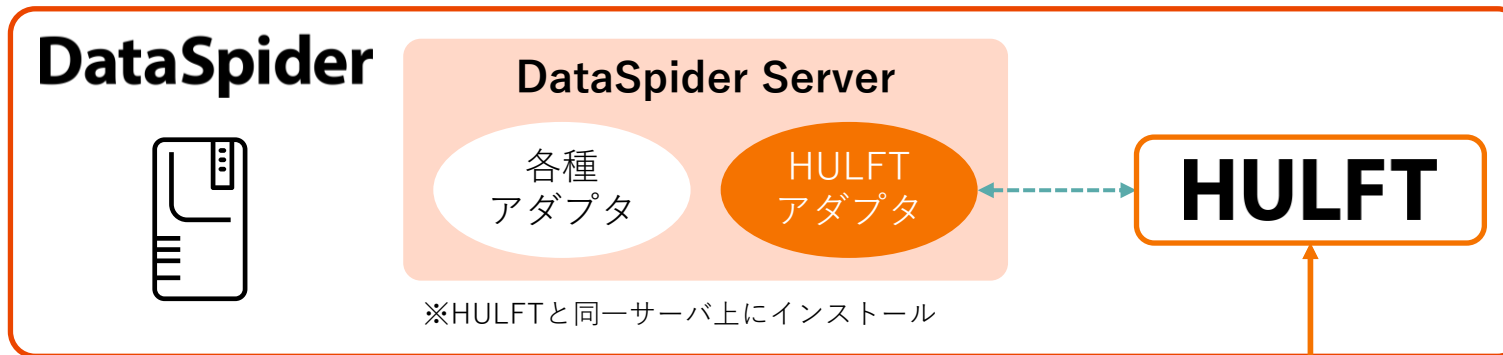
主な特徴

- HULFTによるファイルの集配信をDataSpiderから実行可能
- DataSpiderの持つ高い生産性・操作性を活用して、HULFTのファイル転送をDataSpiderに組み込むことが可能
- HULFTのファイル転送パラメータをGUIで設定可能
- 転送履歴情報を取得可能 ※HULFT Scriptトリガーからの実行時のみ
- 汎用機やオフコンとのデータ連携を実現



製品構成と連携イメージ

HULFTアダプタ製品構成と連携イメージ





各種処理の設定

※当資料のスクリーンショットは、DataSpider Servistaを使用して取得しています。

各種処理の設定イメージ

要求発行ー配信要求

HULFTに登録済みの「ファイルID」を自動的に取得し、相手サーバ上にファイルを配信する処理を行います。
※ utlsendコマンドの実行

新規配信要求処理

配信要求処理

新規配信要求処理

名前(N): 配信要求処理

必須設定 任意設定 メッセージの設定 コメント

HULFT環境設定(O): HULFT環境設定

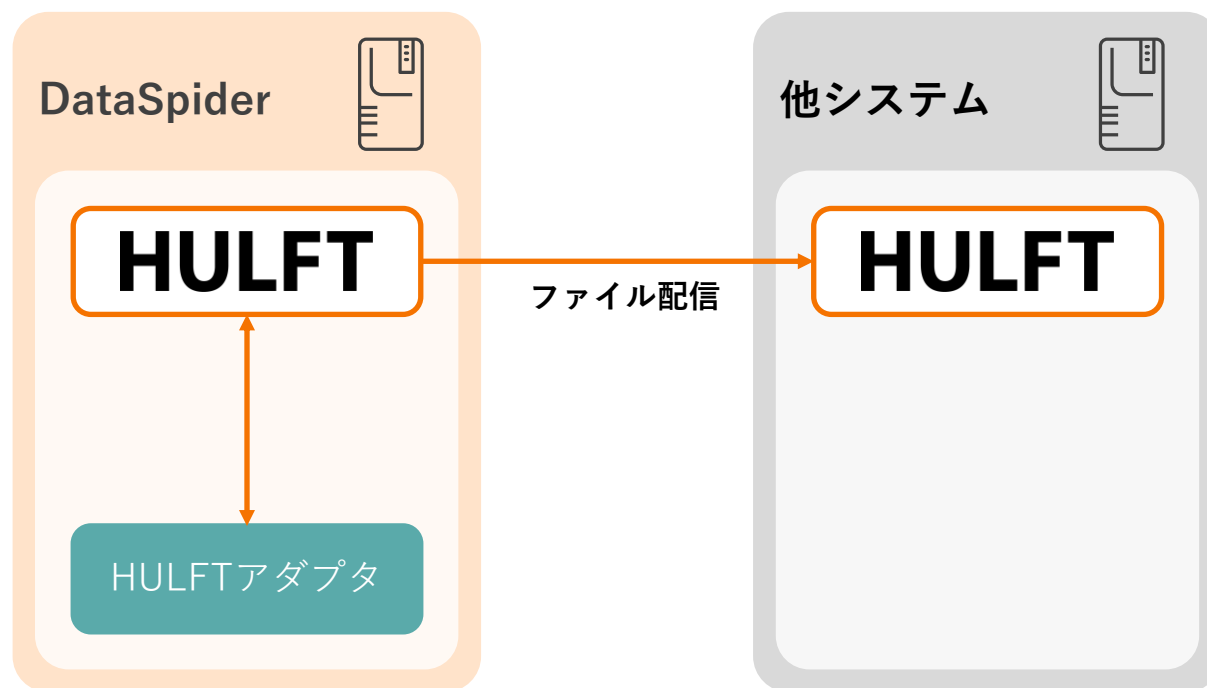
ファイルID: DEMO

同期転送(S): 同期 非同期

同期転送時の待ち時間(W): HULFT設定値 待ち時間を指定

待ち時間(秒)(I):

完了(E) 取消

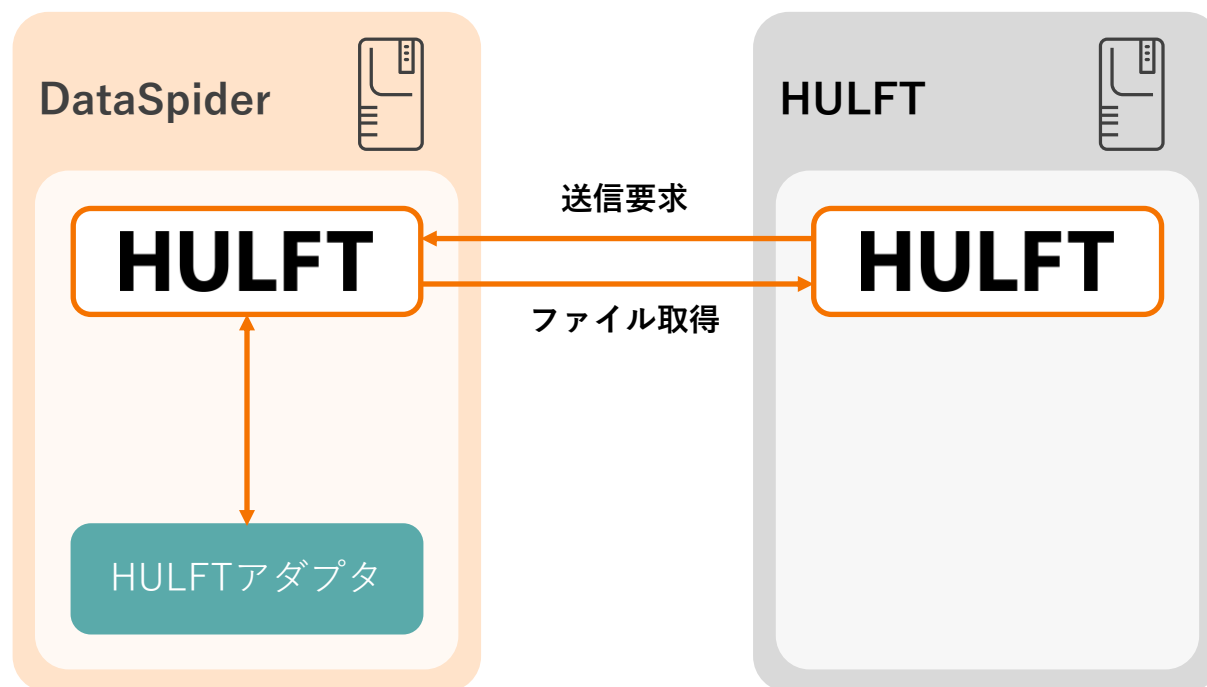


- HULFT配信機能をDataSpiderから実行可能
- HULFT配信関連パラメータを設定可能
- HULFT登録済みの管理情報を自動取得

各種処理の設定イメージ

要求発行ー送信要求

HULFTに登録済みの「ファイルID」を自動的に取得し、相手サーバ上のファイルを取得する処理を行います。
※ utlrecvコマンドの実行

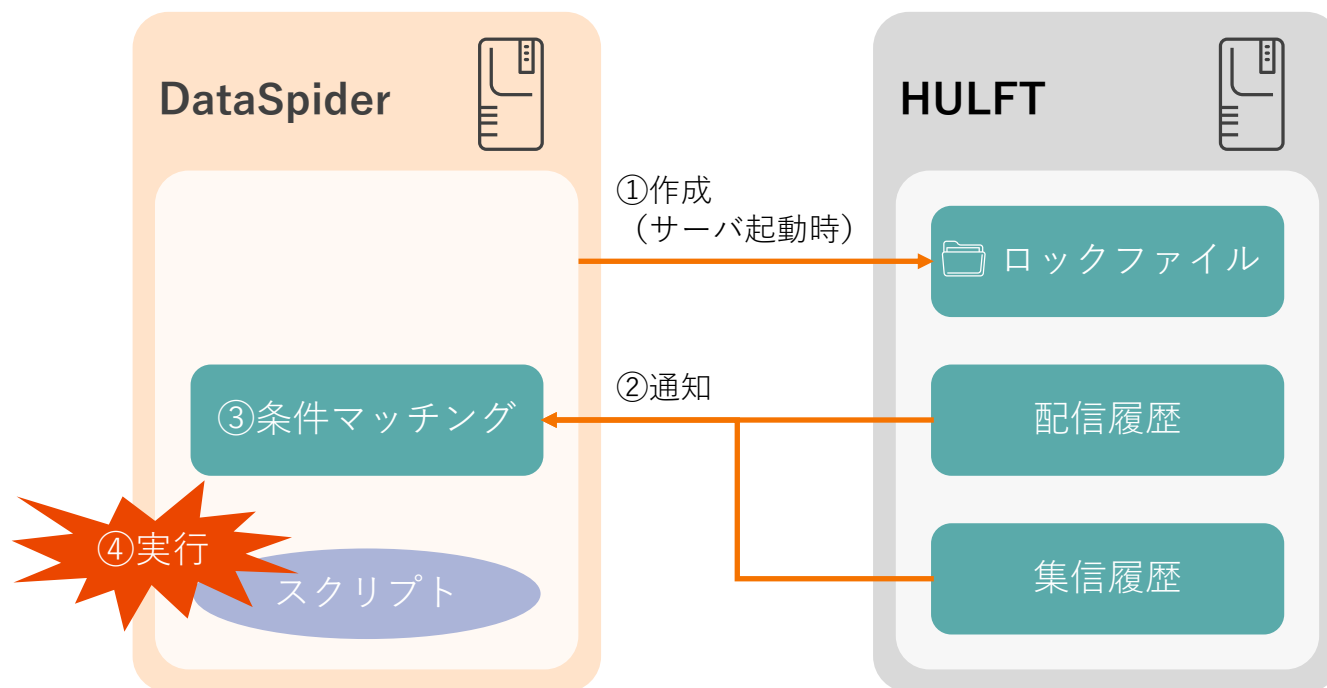
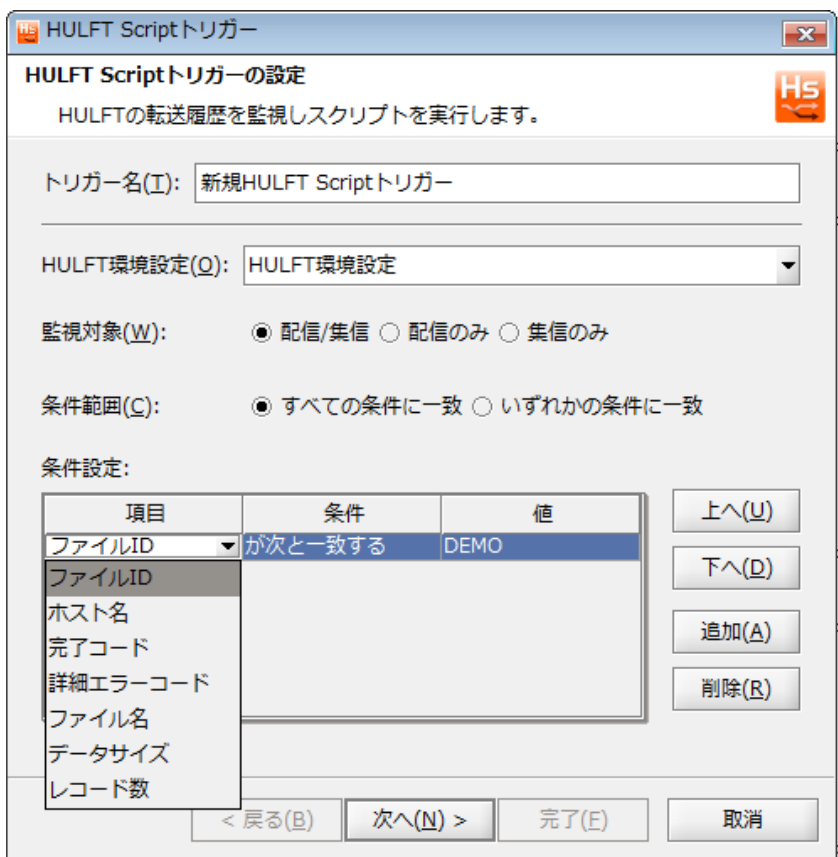


- HULFT送信要求機能をDataSpiderから実行可能
- HULFT送信要求関連パラメータを設定可能
- HULFT登録済みの管理情報を自動取得

各種処理の設定イメージ

HULFT Scriptトリガー

HULFTのファイル転送を検知し、転送履歴が条件に一致した場合にDataSpiderのスク립トを実行します。



- 検知した転送履歴情報は「履歴情報読み取り処理」を使用して参照可能
- 条件項目はHULFT履歴ファイルのフォーマットに対応
ファイルID、ホスト名、完了コード、ファイル名 など

各種処理の設定イメージ

履歴－履歴情報読み取り

HULFT Scriptトリガーで実行されたスクリプトにおいて、HULFTの転送履歴情報の読み取りを実行します。
下記情報は、DataSpider Servistaのコンポーネント変数として取得できます。

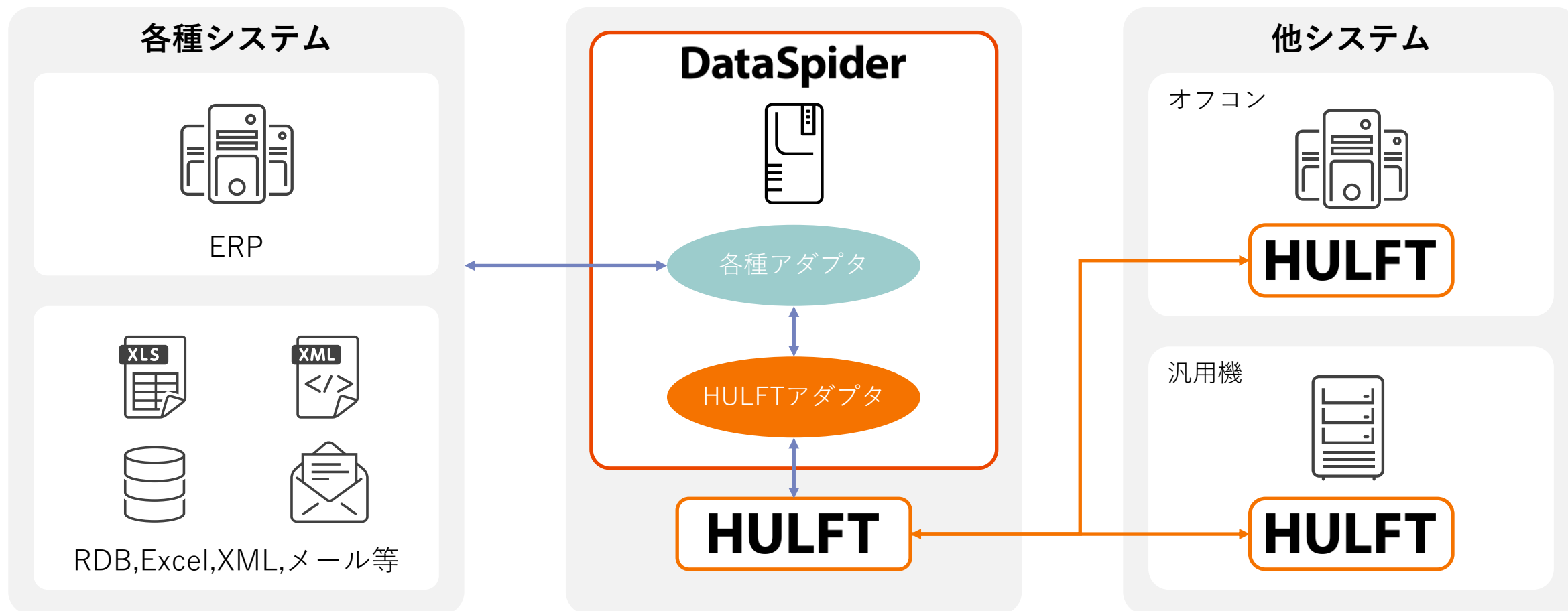
読み取れる主な項目	説明
HS_FILEID	ファイルIDが格納されます。
HS_HOSTNAME	ホスト名が格納されます。
HS_STATUS_CODE	完了コードの下3桁が格納されます。
HS_STATUS	完了コードが格納されます。
HS_FILENM	転送されたファイル名が格納されます。
HS_DATASIZE	データサイズが格納されます。
HS_COUNT	レコード数が格納されます。



適用パターン

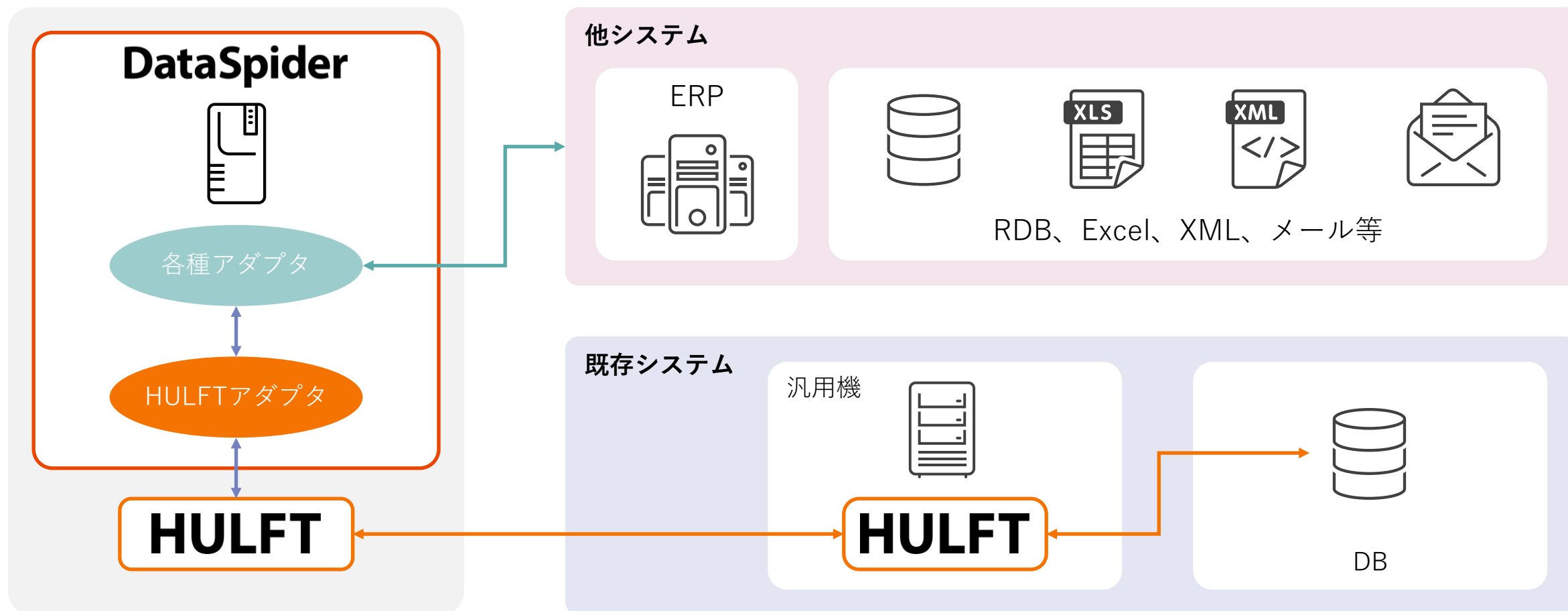
適用パターン：汎用機やオフコンとのデータ連携

汎用機やオフコン上の基幹業務データを、OSの違いを意識せずに、オープン系DBやERPなど各種システムへ連携することができます。



適用パターン：既存のHULFT環境とのデータ連携

既存のHULFT環境と、新規に導入した他システムとの間で、柔軟にデータの連携をおこなうことができます。





HULFT

Move knowledge. Move markets.